

〈最優秀賞〉

登録番号 No.0001 作品名 CHELL288ビル 用途 オフィス併用住宅 新築

◎建築にあたっては健康と環境を第一に考えました。

冷房に慣れていないヨーロッパでも地球温暖化のせいか、近年はエアコンの冷房が使用されるようになりました。その冷房の冷やしすぎにより体調を崩す例が多くあり、その為に健康的な冷房を考えていました。偶々、ポルトガルのゴルフ場でドイツの技術で体に冷風が当たらない「健康的な冷房」の話が出て、興味を示したら「貴方のために日本に行って施行してやる」という話まで進みました。

◎ヨーロッパで知った「健康冷房」の技術。

ドイツから日本に来て施行してもらうのもメンテナンスを考えれば無理があるのでやんわりとお断りしたら、元々は日本で開発された技術だから日本で探せばあるだろうとなりました。日本で調べて、どうやら開発メーカーと話ができることになりましたが、安価な夜間の電力を使用して水を作り冷房に使用し、同様に深夜の電力で床暖房や給湯、浴槽の加温やプールの給湯・加温まで賄えると聞いて早速採用に踏み切りました。このシステムの魅力は冷房時に併用でき、まさに「頭涼足温」の健康的な室内環境が経済的に実現できることです。足下が温かく、頭は寒くなく涼しく、しかも安価な深夜の電力を使用することは環境にも経済的にも好適な理想的なシステムです。

4枚構成中のNo.1

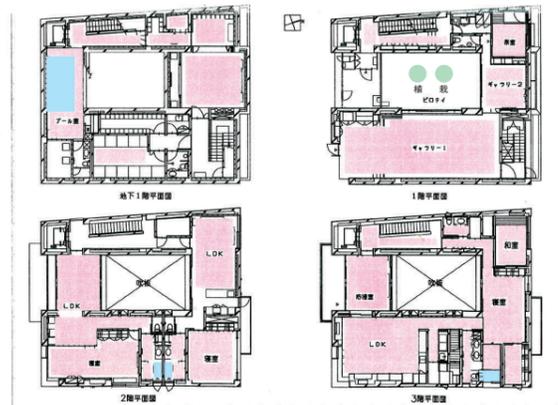


当建築のコンセプト。
 1. 安全で安心して使用できる建物であること。
 2. 健康的で快適性が得られる建物であること。
 3. その上層階に好適で省エネ性に優れた建物であること。
 4. 立地する周辺の空気に配慮したデザインの建物であること。
 5. 建物の中央をピロティとして各階層の採光と通風に配慮する。
 設備の概要。
 風を感じさせない天井冷房（夜間電力利用の水蓄熱式）と床暖房（同温水蓄熱式）を全室に設置する。
 この天井冷房と床暖房は同一の熱源を相互に利用する「ヒートサイクル」と言うシステムを採用した。
 給湯及びプールの加温も同システムにて賄う。同一熱源を相互に冷暖に利用する「ヒートサイクル」では天井冷房と床暖房が併用でき健康的で快適な「頭涼足温」の居住空間が年間を通じて得られる。

夜間電力利用の床暖房を並置した建物の概要を示す写真を特許申請に添付して下さい。レイアウトは自由です。 整理番号 001

ピンクの部分は床暖房を示す。

■ 配置平面図（必ず特許に方位、室内外の機器の配置、床暖房設置場所等を示して下さい。図面貼付可）



登録番号 No.0001 作品名 CHELL288ビル 4枚構成中No.2



ギャラリー1



浴室内部



ギャラリー2から浴室



浴室の扉

登録番号 No.0001 作品名 CHELL288ビル 4枚構成中No.3



ピロティ



1F階段



2Fの洗面・浴室

登録番号 No.0001 作品名 CHELL288ビル 4枚構成中No.4



3FのD・K



3F居室



3FのD・Kの暖房



温水プール

受賞者 CHELL288Japan 施主 Mr.R・NAGATANI (東京都港区赤坂)。設計 株式会社 坂倉アトリエ工機 (東京都港区赤坂)。施工 株式会社 竹中工務店様 (東京都中央区銀座) の3者共同出品。

建築の概要：(RC造、地下1階・地上3階建て)

夜間電力を利用した「氷蓄熱式の冷房」と「温水蓄熱式の床暖房」を使用する。給湯、浴槽加温、プール給湯にも夜間電力を利用する。熱源の殆どが電力であるが、厨房はIHクッキングヒーターと併用して一部にガスレンジを設置した。他に観賞用としての暖炉があり、その熱源にも都市ガス(東京ガス(株))を使用する。

設備の特長：夜間電力の利用でキュービクルの設置が避けられた効果は大きい。

建物の規模からしてキュービクル(自家用受電装置)が必要であるところを、夜間電力の利用でキュービクルの設置を避けることができた点が経済性の面では大きい利点。冷房、暖房、給湯、プールの給湯等は夜間電力が主体である。ガスは趣味の分野での使用で、夜間や留守の際はオール電化の安全性が確保されている。熱機器関連のメーカーリスト：サウナ、暖炉、プール装置等は中山産業(株)。「給湯・床暖房用温水器 (ES-6000)」、「冷房用氷蓄熱式ヒートポンプ」等は富士プラント・アルコ(株)